

アクティブ・ラーナー育成に向けた教職員研修体系構築と学生の果たす役割・成長



発表者：細羽 竜也(総合教育センター副センター長/A P事業推進部会)
岡田 高嘉(総合教育センター准教授/A P事業推進部会/教職員研修検討部会)
伊藤 俊(本部教学課(A P事業担当))



1. 背景

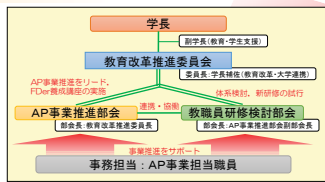
- ▶ 県立広島大学は、文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」テーマ1(アクティブ・ラーニング)の選定を受け、アクティブ・ラーニングの組織的な導入・実践を通じて「生涯学び続ける自律的な学習者(アクティブ・ラーナー:ALer)」を育成するための教育改革を推進している。その取組の一つであるファカルティ・ディベロッパー(FDer)の養成では、多様な研修の実施により授業改善を牽引する教員の資質・能力向上を図ることで、アクティブ・ラーニング導入授業の拡大や、教員の授業力向上を達成してきた。また、FDerの積極的な働きかけにより、教育改善活動への職員・学生の参画が実現するなど、大学が一丸となり教育に取り組む文化が醸成されつつある。
- ▶ 一方で、補助事業の終了(R2年3月)を目前に控え、事業後もFDerを中心としたアクティブ・ラーニングの推進を継続し、これまでに培ったノウハウを学内へ一層拡大していくための制度検討が課題となっていた。そこで、AP事業の成果を継承・発展させつつ、時代の要請に応えた教職員養成を実現するため、ALer育成に必要な教職員の資質・能力向上という観点から研修を捉え直し、新たな教職員研修体系である「県立広島大学アクティブ・ラーナー育成のための教職員研修体系」を平成30年度に策定し、本年度から始動させた。
- ▶ 本研修体系は、学生のALerとしての成長をゴールとし、「系統的・段階的な研修項目配置」「教職員共通研修の充実」「振り返りによる効率的な研修受講」「教職員研修への学生の参画」を特徴としている。このうち4つ目の特徴は、教員・職員・学生の協働による教育改善の実現を企図しており、SA学生を中心として体系中の一部研修に学生の参加を求めることで、研修を一層効果的なものにするとともに、参画した学生自身のALerとしての成長にもつなげることを狙っている。
- ▶ 本発表では、新研修体系の策定経緯、概要、実施研修の一端を紹介するとともに、研修体系における学生の役割と成長について、具体的事例を交え報告する。

2. 新研修体系の概要

(1) 検討体制

学長直轄の全学委員会「教育改革推進委員会」の専門部会として、各部署の教職員により構成される「教職員研修検討部会」を設置。同じく委員会直下の専門部会である「AP事業推進部会」とともに、事業成果の継承・発展の実現に向けて検討作業を進めた。

策定作業の大まかな流れとしては、まず「県立広島大学の教職員に求められるALer育成のための資質・能力」を定義したのち、これを満遍なく涵養する研修項目(キーワード)を洗い出し、体系図上に配置していく手順を進めた。



策定

(2) 新研修の特徴

【特徴1】 系統的・段階的な研修項目配置

▶ 体系図には、各研修項目(キーワード)を次の枠内の区分で系統的・段階的に配置

「横」の区分(水準)	「縦」の区分(研修の種類)
① 基礎的資質・指導力の育成 ② 実践的指導力の向上 ③ 総合的力量的向上	① 基本研修:各段階で修得していることが求められる要素の研修 ② 選択研修:個別の状況に応じて修得が求められる要素の研修 ③ 自主研修:自己研鑽のために自主的に受講する学外研修等

【特徴2】 教職員共通研修の充実

▶ 教員対象研修、職員対象研修のほか、共通で実施可能な研修(教職員双方に受講が推奨される汎用的内容の研修)は「教職員共通研修」として整理し配置。

▶ SD義務化への対応と併せて研修実施の効率化を実現。

【特徴3】 振り返りによる効率的な研修受講

▶ 教職員は、ポートフォリオに類する自己評価表により自身の資質・能力修得状況を可視化し、教員間・職員間で相互に振り返りを行うことで、自己の成長を把握。

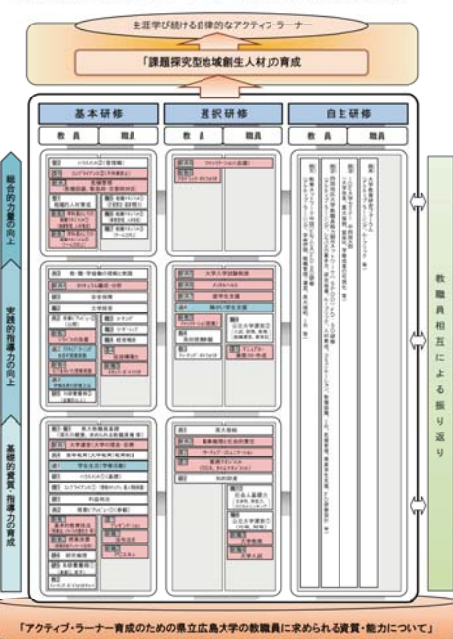
▶ これを基に受講研修を選択することで、経歴やキャリア等に応じた効率的な研修受講を可能とする。(※運用開始に向けて現在準備中)

▶ 対象研修は、いずれもワークショップ等の非講義形式で行われ、学生の研修参加により、教職員とは異なる学生の目線から、教育改善に資する意見が得られることが期待される。

【特徴4】 教職員研修への学生の参画

▶ 「大学が一丸となり教育に取り組む文化」を一層根付かせるため、新研修体系において、教職員に加え、SAを中心とした学生を参加対象とする研修を新設。

県立広島大学アクティブ・ラーナー育成のための教職員研修体系



3. 県立広島大学のSA

(1) 県立広島大学のSA

- ▶ 学生が学生の学びを支援することで、教える側・教わる側双方の、知識の定着及び学習に対するモチベーション向上を目的として、SA(「学修支援アドバイザー」と呼称)を学生の中から養成している。
- ▶ SAは、その理念(求める学生像)を、「授業内外において本学学生への学修支援を行う学生であり、他者の学びを支援すること等を通じて、自身が学ぶ喜びを感じ、生涯学び続けるアクティブ・ラーナーを目指す者」としており、単なる学生スタッフではなく、ALerのロールモデルとしても活躍・成長が期待されている。

参画

4. 学生の役割と成長 — 研修への参画を通じて

令和元年度は、学生(主にSA)を参加対象とする、次の2つの研修を実施した。以下に概要を紹介するとともに、学生の役割と成長についてアンケート結果を基に報告する。

◆ 授業ピアレビュー(授業参観・公開)

【1】 研修の目的

FDerを中心とした教員が公開する授業を教職員が参観し、公開教員の授業力向上を図るとともに、参観者も授業運営や学生支援等について気付きを得る。

【2】 実施内容(R元)

本年度前期は6/24~7/12の期間で集中的に実施。教員56名が公開した計149コマの授業に対して、延べ168名の教職員が積極的に参観し、公開者・参観者の双方が有益な示唆を得た。

【3】 研修中の学生の役割

教職員と同様に授業を参観し、6つの観点(※)に基づき学生目線から受講生の様子を参観する。SAは、参観して得た気づきや意見を授業参観シートに記し、授業教員へ提供する。

※6つの観点…準備、反応、思考・表現、省察、協働、社会性

【4】 研修を通じた学生の成長

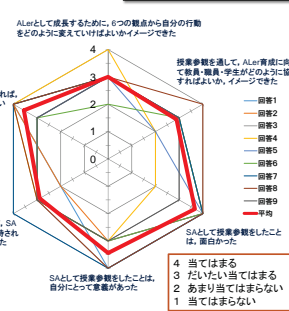
学生への自己評価アンケートにより把握に努めた。

＜アンケート概要＞

- 実施時期: 9/10~9/16(ピアレビュー期間後)
- 実施方法: WEBアンケートにより、各問について4件法で質問
- 回答者数: 9名(学部生 8名, 大学院生 1名)
- 回答状況: 右図のとおり

＜学生の成長＞

自己評価では、用意した全ての間で概ね肯定的評価が得られた。「ALerとしての成長」や「ALer育成に向けた教・職・学の協働」等ハードルの高い問においても、平均で3点近い得点となっており、学生の成長が確認できる。



◆ 「教・職・学」協働による教育改革ミーティング

【1】 研修の目的

ALerを全学で育成するために、教員・職員・学生が相互に意見交換することを通じて、より良い大学教育の実現に寄与する資質・能力を身につける。

【2】 実施内容(R元)

学内調査の統計資料等を踏まえて、参加者がそれぞれの立場から、学生の学びについて率直な意見交換を行う。本年度は、ALer育成のための「ルーブリックの活用」をテーマとし、関連な議論が行われた。

【3】 研修中の学生の役割

与えられた課題に対して、自身の学修や大学生活の経験を基に唱論し、教員・職員と議論し、学生目線から意見を述べる。

【4】 研修を通じた学生の成長

実施後の学生への自己評価アンケートにより把握に努めた。

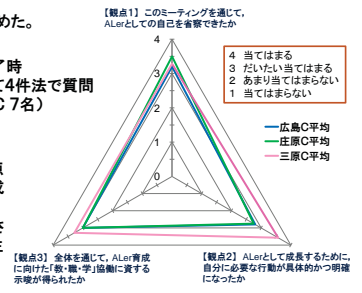
＜アンケート概要＞

- 実施時期: 各キャンパスにおけるミーティング終了時
- 実施方法: アンケート用紙により、各観点について4件法で質問
- 回答者数: 20名(広島C 5名, 庄原C 8名, 三原C 7名)
- 回答状況: 右図のとおり

＜学生の成長＞

各キャンパスとも、実施後の自己評価では全ての観点で肯定的な評価が得られており、学生のALerとしての成長に大きく寄与したことが示唆される。

また、自由記述において、「主体的な学修姿勢の重要性を理解した」等の記述が見られるなど、学修に対する学生の意識の面での変容も窺えた。



5. 成果と今後の展望

- ▶ SA学生の研修参加について、上述の参加学生による自己評価以外に、教職員からも「学生と意見交換でき有意義であった」等、学生との協働に対する肯定的な評価が得られている。
- ▶ 以上の評価から、「学生目線からの教育改善の意見提供」及びこれを通じたALerとしての成長について、初期の目標を達成できたと言える。
- ▶ 今後の展望としては、学生の研修参加による効果を実質化させていくため、参加学生への研修参加の意義付けを図っていくとともに、更なる効果検証・改善を進めていく必要がある。